

信濃國

信濃國ハ、シナノ、クニト云フ、東山道ニ在リ、東ハ甲斐、武藏、上野、西ハ美濃、飛驒、南ハ駿河、遠江、三河北ハ越中、越後ノ十箇國ニ界シ、東西凡ソ二十三里、南北凡ソ四十五里餘、其地勢最モ高ク、至ル所ニ高山峻嶽重疊シ、河流亦四方ニ奔馳シ、實ニ我國中原ノ脊梁ト稱セラル、此國ハ古ヘ國府ヲ筑摩郡ニ置キ、伊那、諏方、筑摩、安曇、更級、水内、高井、埴科、小縣、佐久ノ十郡ヲ管シ、延喜ノ制上國ニ列ス、是ヨリ先、元正天皇ノ養老五年ニ、諏方郡一帯ノ地ヲ割キテ、諏方國ヲ置キタリシガ、聖武天皇ノ天平三年ニ至リテ、復タ信濃ニ併合セリ、明治維新ノ後、筑摩郡ヲ東西ニ安曇、佐久ノ二郡ヲ南北ニ、伊那、水内、高井ノ三郡ヲ上下ニ分チ、新ニ長野市ヲ設ケテ一市十六郡ト爲シ、長野縣ヲシテ之ヲ治セシム、

名稱

〔倭名類聚抄五〕信濃之奈乃

〔運歩色葉集志〕信濃 信州

〔日本風土記一〕寄語島名 信濃申阿農

〔地名字音轉用例〕シノ韻ヲナノ行ノ音ニ通シタル例

しなの 信濃國之奈乃 信ヲシナニ用ヒタリ、古事記ニ科野トアリ、濃ノ字モトハシノナナリ、

〔日本書紀通證十二〕信濃國倭名鈔之奈乃齊明紀及古事記作科野今按、科木出於此國、其薄皮甚韌

名鈔信濃國更級郡更科左奈埴科倉科久良之奈高井郡穗科保之奈上野國多胡郡辛科加良之奈利根郡奈萬之奈笠科加佐之奈等、亦疑與國名同出、于此義也、神樂歌云、木綿造流信濃、原爾也、延喜民部式年料別貢、雜物、信濃國上野國俱有二梓皮、

〔古事記傳十四〕科野國齊明紀にも此字を作り、名義は山國にて、級坂ある故の名なりと師眞淵賀茂

說れき、其說なほ冠辭考しななて、るの條に見えたり、此國には、なほ倉科、穗科、御科、仁科、蓼科など、志木あり、古いはゆる考しななり、其皮なな、故に、志那とは名くるなるべし、又、紙にもせしければ、志那は志良なりとも云り、さて此木の皮なは、ぎて、木綿に作り、衣衾などにもし、又、紙にもせし